

ちやんが見つけました。

金「あ、これは、あのおぢさんが、釣つたのを落として入らしつたのだ、そう、これから後をおつかけて、持つていつて、上げませう。」

金ちやんは、そのお魚を手にぶらさげて、一生懸命にかけだしました。おぢさんは、もうたいへん遠くまで、行つてしまいました。金ちやんがかけてゆきましたからとうとうおいつきました。ハア、いきをきりながら

金「おぢさん貴下のお魚を僕が持つてきて上げましたよ。」おぢさんはおどろいてふりむきました。がニコニコ笑ひながら、

お「これはよい子だ、ごほーびに、それもまた、もう一尾、別に、上げよう」

といつて、かごの中から外に一つだして、お魚二つを金ちやんに下さいました。金ちやんは、お禮をいつて、兩方の手に、その魚をさげて、うちに歸りました。

うちでは、お母さんと姉さんと丁度川からたくさんの洗濯ものを、かごにかゝへて、歸つてきて、お夕飯の、お仕度のところでした。金ちやんのお魚は、すぐ煮て、三人で、おいしいお夕飯を、いたゞきました。(終り。)

## ○お山の火事

松 田 清

お山のなかに、只一軒、うちがあつて、きこりが住んでいました。そこには、太郎さんと、お花ちゃん、のまだ小さい、二人の子が、ありました。ある日、その子供の、お父さんと、お母さんは町に御用があつて、出てゆきました。

お日様が西にかくれて、だん／＼夜になりましたが、そのお父さんとお母さんはなかくお歸りになりません。太郎さん、お花ちゃんはお床に入つて、ねて終ひました。やがてゴ／＼バリ／＼と、妙な音がしますから、太郎さんは、おどろいて、

すぐにとびおきて外を見ました。

さあ大へんです。お山は一面の火になつて、いまにも、太郎さんのおうちも、やけそうです。杉でも、松でもみなゴ—く—バリ—く—やけてしまひます。まあおそろしい事でした。けれど太郎さんは、つよいお子さんですぐ妹の、お花ちゃんを、ゆりおこしました。

「大へんです、花ちゃんこゝに、グズ—く—してるよ、やけ死にます、さあ早く」と、ねむい目をこすつてる花ちゃんの手を引いて、うちをとびだし、火のない方に、にげだしました。だん—く—にげてゆきますと、ウシロの方から「クク」「クク」とないてくるものがあります、それは毎日一緒に、遊んだ鶏でした。

よつほど、遠くまでにげて、山を下りて、ゆきまですと道のそばに、いはやがありました。丁度、風も入らないし、火もきません、夜つゆをしのぐにはよい窟でした。

太郎さんは、お花ちゃんと鶏をつれて、そこに入り、今夜はそこに寝る事にきめました。

太郎さんは羽織をぬいで、そこにしいて、お花ちゃんと、二人ねました、にはとりもわきにねました。

やがでコケコッコ、とにはとりの、なき聲に目をさまして、見ますと、もう夜はあけはなれて居ります。お花ちゃんは、目をさまして、お腹がすいたといつて泣きだしました。

太郎さんが困つて、あたりをみますと、まあよい事には、あのにとはとりが大きい卵をうんでいました。よろこんで、卵にあなをあけて、お花ちゃんに、のませました。お花ちゃんそれをのんでまたねむりました。

太郎さんは、ねているお花ちゃんと、にはとりに、おるすを、たのんで、お父さんと、お母さんを、さがしに出てゆきました。もうお山の火事はおしまいに、なつていました。

「お父さんお母さん」と太郎さんは、聲を限りによんで、あるきました。聲がつかれた頃、お山の中を心配しながらさがして、あるいてる、お父さんと、お母さんにあひました、

「お、太郎ではないか？」

「よくまあぶじでいました、」

二人でかはるく抱いて頭を撫せました。

それから昨夜のやどにお父さんとお母さんを案内していろく御話しました。無事に寝てゐるお花ちゃんを御らんになつた時そのよろこびはどんなでしたらふ。そして太郎さんのかんしんな働きを御ほめになりました。(終り)

菓子盆にけし人形や桃の花 (五元集)

ともし灯の用意や難の壘所 (千代)

ひな祭る都はづれや桃の月 (蕪村)

雑 報

○本會常集會 去月十八日本會常會は豫定の如く東京市小石川區竹早町なる東京府女子師範學校附屬幼稚園に於て開會せり、講師小林文學士は「社會と兒童との關係」に就いて有益なる講演あり、終つて別室に於て、茶菓を喫しつゝある間に前田同校主事の演説あり、次には遊戯室に於て有志の方々の遊戯交換などありて賑かに且面白く打ち過して午後五時頃散會を告げたり。當日出席者八十餘名頗る盛會なりき。

○聖心女學院附屬幼稚園の火災 去る二月十七日午後四時本會幹事武井綱技氏の管理さるゝ同幼稚園は祝融の災に罹られたり。本會よりの見舞に對し同氏の返書あり左に録す。

稚幼園出火の節は早速御見舞狀下されありがたくお禮申上候十七日金曜日午後四時三十分と覺し頃園の西北隅より發火見るとも全園は焼失いたし候出火としるや直ちにかけて候へとも其時は全園火にて入る事叶はずみすく焼け落ちるを傍觀いたしをり候次第にて一物をもとりいだす暇もなく唯わづかに私の部屋のもの少々とりいだしたるのみにて候然し幼児の歸園後に怪我等少しも無之候ひしは不幸中の幸と存じ候翌日より洋館の一部にて従前のごとく保育をいたし居り候まゝ他事ながら